

2022年度 事業報告書

2022年4月1日～2023年3月31日

法人の名称 NPO法人ここだね

1. 事業総括

今年度も、NPO法人ここだねの理念の実現のため、フリースクールの運営事業を中心に、下記のとおり、各事業を実施してきました。昨年度より探し続けてきた新拠点が6月に決まり、7月と8月で旧拠点の片づけと並行して新拠点の整備、引越しを行ない、9月からの事業再開に間に合わせるという過密なスケジュールとなりましたが、フリースクール運営に大きな影響を与えずに、実施することができました。念願の専有の拠点を借りることができ、子どもたちもスタッフも落ち着いて過ごす空間を得られました。ただし、拠点の賃料が新たに生じたため、今まで以上に、経営上の負担が課題となりました。

コロナ対策の一時的なものですが、県の補助金を受けられたことによって、その間の利用料の減額をすることができ、公的な補助があることで、子どもの学びの場が保障されることを実感でき、今後の制度化のために声を上げていく重要性を感じた一年でもありました。

不登校児童生徒数が24万人を超過し、子どもたちとその保護者にとってフリースクールという多様な学びの場の重要度がより一層増し、経済的に利用料の負担の厳しい世帯も増加しているため、フリースクールを無償または低額で利用できる社会の構築に力を注いでいくことが、ここだねの使命と感じながら行政への働きかけも行なってきました。

2. 事業実施内容と成果

(1) 特定非営利活動に係る事業

① フリースクール運営事業（「フリースクールここだね」事業）

◇フリースクール運営事業

- ・内 容 学校以外の多様な学びの場での教育を希望する小中学生を対象として「フリースクールここだね」の運営を行ないました。
- ・日 時 月・水・金 9:30～14:30、火・木 9:30～13:30
- ・場 所 逗子市の拠点（9月から新拠点）および連携団体の活動場所
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 フリースクールを必要としている児童生徒
- ・活動実績 通算 年 189日開校
登録児童 20人、年間利用のべ1,090人
- ・事業の成果

開催日の定員を100%とした場合、実際の利用率は68%となりました。当初、火曜日に「小学生少人数クラス」（定員5人）を設置しましたが利用希望が少なく、「学習クラス」を増やすことで調整を図りました。移転後は外拠点（たねもり）を利用した「たねもりクラス」を実施する等、火曜と木曜の活動展開に苦慮した一年でした。

通常クラスは、アートセラピーを定期的に行なったり、遠足や体験活動に出かけたり、子どもたちは元気に過ごし、学校に復帰する子も増え、下半期の利用が大幅に減りました。4名の中学生と1名の高校生の「学習クラス」は、「理科ハウス」の利用や「中高生アート」を行なうなど、充実した一年を過ごし、2名の卒業生を送り出しました。昨年度の卒業生でもある高校生は、ボランティアとして小さい子のお世話をするなど活躍してくれました。

② 学校以外の多様な学びの場を求める子どもとその家族のための相談支援事業

◇相談支援事業（「想暖室」事業、「みみじゅく」事業）

- ・内 容 学校以外の多様な学びについて、子どもの生活や進路、ご家族の悩み等について相談を受けたり、サポートを希望する子どもの学習支援や、フリースクールの見学や体験等の支援を行ないました。
- ・日 時 随時（予約制）月・水・金の 14:40～17:30
- ・場 所 逗子市の拠点
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 学校以外の多様な学びを求める子どもとその家族
- ・活動実績 利用のべ 321 人
(相談 119 人、見学 69 人、体験 31 人、学習支援 102 人)
- ・事業の成果

フリースクールの相談・見学・体験は、昨年度に比べて倍増し、学習支援は半減しました。学習支援の数が減った要因は、利用児童の低学年化も影響しています。助成金と補助金を活用し、一年を通じて無料相談ができたため、相談の件数が倍増しました。見学は低学年の相談が多く、入会につながった子も小学1～4年生でした。

相談支援事業においては、入会された家族とも面談を行ない、その家庭ごとの課題に向き合い、子どもも家族も安心して過ごせるように適切なケアとサポートを行なってきました。

③ 学校以外の多様な学びの場を求める子どもとその家族と市民の交流と社会教育の推進を図るための事業

◇社会教育推進事業

- ・内 容 子どもも大人も自由に健康で幸福でいられる社会を願い、心と身体の健康や自然活動についての講座の開催をしました。
- ・従事者人員 2人
- ・受益対象者 学校以外の多様な学びを求める子ども・家族・一般市民
- ・活動実績 ①いのちのおはなし講座（6/20 開催、参加 16 人）
②生物講座（7/11、7/15 開催、参加 18 人）
③布ナプキン講座（7/20 開催、参加 11 人）
④土中環境再生講座（8/7、9/11、10/9、11/13、2/5 開催、参加 53 人）
⑤門松づくり講座（12/11 開催、参加 16 人）
⑥ホメオパシー講座（11/17、12/8、1/26 開催、参加 50 人）
- ・事業の成果

フリースクールの子もたちと保護者を対象にした内部の講座と、オープンにした形の講座の両方を実施しました。「土中環境再生講座」は、新拠点たねもりの環境整備を参加者と楽しみながら、子どもたちの過ごす場を切り開き、安全で心地よい遊び場づくりと自然と親しむ畑づくりを並行して行ないました。「ホメオパシー講座」は、オンライン視聴もできる形で利便性を図り、参加人数の増加にもつながりました。

④ 人権擁護と平和の推進と福祉の増進の普及啓発事業

◇地域サポート事業（「ここ Cafe」事業、「よかったね」事業）

- ・内 容 地域の福祉増進のための生活支援や憩いの場の提供を行なう。
- ・活動実績 今年度の事業実績はありませんでした。

3. 補助・助成等の状況

①補助金等

- ・令和4年度子どもの居場所づくり推進委託事業（神奈川県教育委員会。476,000円）
- ・令和4年度ひきこもり等支援団体支援事業協力金（神奈川県青少年課。120,000円）

②助成金等

- ・神奈川子ども未来ファンド2021年度助成（無料学習支援・無料相談事業「フリーピース」実施。支援スタッフ人件費。200,000円）

③後援、協力、共催等

- ・子ども居場所づくり事業（逗子市協力。「体験学習施設スマイル」の公的利用）
今年度もスマイルが予防接種会場となったため、9月に2回と3月に2回のみ利用。

4. 関係機関との連携

①神奈川県学校・フリースクール等連携協議会（加盟）

公的機関との連携として、神奈川県学校・フリースクール等連携協議会による不登校相談会の個別相談会（今年度は、10/1の湘南三浦：横須賀会場に出席）で相談の場を開き、より多くの方々にフリースクールとつながる機会を提供することができました。県教育委員会や他のフリースクールと連携できたことで、地域連携と官民協働によって課題解決に取り組むことができました。

②フリースクール全国ネットワーク（会員）

フリースクール全国ネットワークでは、フリースクールにおいて子どもが安心安全な環境の中で学び育つことができ、子どもも大人も安心して関係を築くことができるように「フリースクールガイドライン」を策定し、フリースクールに関わる全ての人の権利擁護の実現を目指すこととなりました。前年度に引き続き、当法人から深沢武が、ガイドライン作成チームのメンバーとなり、内部通報窓口システムの構築を中心に議論を重ねてきました。

③自治会

新拠点のある桜山番合谷戸自治会の方々に、ここだねを温かく迎え入れていただき、自治会の文化祭にも参加し地域の方との交流を深めました。

4. その他

- ・『「不登校児童生徒に対して多様な学習機会を確保するための経済的支援制度の確立を求める意見書」の採択を求める陳情』の署名活動を、ここだねの保護者と、これからフリースクールを必要とする次世代の保護者と協力して行ない、逗子市議会に提出し、全会一致で可決されました。